



発行者 一般社団法人 群馬県手をつなぐ育成会
会長 江村恵子

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター5F
TEL 027-255-6212・FAX 027-255-6241
印刷所 朝日印刷工業(株) 027-251-1212

前橋市手をつなぐ育成会 あんしんノート説明会

前橋市手をつなぐ育成会主催のあんしんノート説明会が令和元年十月八日(火)に、前橋市総合福祉会館を会場として開催されました。

当団は申込者が定員をオーバーしたため、急遽テレビ中継会場が設けられ百三十名の参加のもと大盛況の説明会となり、関心の高さがうかがえました。主催者である前橋市育成会の原澤正光会長の挨拶に続き、県育成会の江村会長が挨拶したあと、前橋市育成会の前川知三副会長があんしんノートの紹介をしました。

データの更新ができるようファイルに入れ込む形式としたことや、県のホームページからダウンロードできること、保護者を中心としたチームづくりのアイテムとしても活用できること、ノートは記入して初めて完成すること、皆の意見を取り入れて増やしたので枚数が多いが、書きやすいところから書けば良いこと、延命治療の頁は、前橋市医師会作成のノートから引用させていたいしたこと、後見人や施設は医療行為の同意権がないので親族が判断する必要があること、ノートは情報の整理にも役立つこと、幼いときからの記録が手帳や年金の手続きに必要となること、親族など支援者が年に数回集まり話し合う支援の輪作りが大切であることなどを説明されました。



前橋市手をつなぐ育成会
原澤正光会長挨拶

次に高橋まさ子副会長の主導で「あんしんノートに書き込んでみよう」と題し、皆で時間を割いて、いくつかの頁への記入体験を行いました。
続いて(株)ジェイアイシーの担当者から親なき後に備える保険制度について、丁寧な説明がありました。
最後に群馬県相談支援専門員連絡協議会会長で前橋市基幹相談支援センターの相談支援専門員である坂柳幸子氏が日頃から支援者とつながっておくことの大切さや、あんしんノートを記入しておくことの重要性について、実際に起きた緊急時の事例をとおして説明してくれました。吉越恵実相談支援専門員からは、前橋市基幹相談支援センターの役割や、センターと相談支援事業所との連携状況などについて説明がありました。

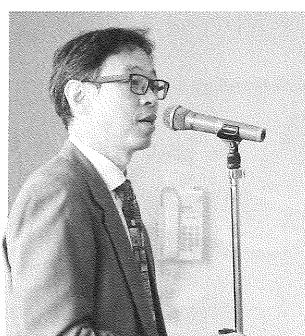
前橋市手をつなぐ育成会では、おしゃべり交流会でもノートの説明を実施していくそうです。



前橋市手をつなぐ育成会
あんしんノート説明会
参加者の様子



前橋市手をつなぐ育成会
高橋まさ子副会長記入体験



前橋市手をつなぐ育成会
前川知三副会長説明

太田市藪塚本町手をつなぐ育成会 あんしんノート説明会

太田市藪塚本町手をつなぐ育成会主催のあんしんノート説明会が令和元年十月二十四日（木）に、太田市藪塚本町文化ホールカルトビアを会場に開催されました。主催者である太田市藪塚本町育成会の八高幸子会長の挨拶に続き、県育成会長の江村会長がパワー・ポイントを使ってあんしんノート作成の経緯等について説明しました。冒頭、長男が重度心身障害のため施設で二十四時間の療養介護を受け、胃瘻による栄養補給を続けていることを紹介し、障害者の親は不安が多くて整理できない状況にあるが、ノートに記入することで何が不安なのかが見えてくると、本人との対話を繰り返し本人の意思を尊重して記録していくことの大切さを訴えました。また、ノートが相談支援機関とつながり、次の支援者に託すきっかけになること、子供にとても貴重な財産になることなどを説明しました。また、ノートの記入が困難な項目として、成年後見制度と延命治療の二点をあげ、成年後見については費用負担、身上監護、医療同意など様々な課題があり、一度決めたら変更が困難なので誰を成年後見にするかは慎重に判断する必要があること、延命治療については、元気なときはなかなか決断できないが、かかりつけ医をつくつておくことと、終末期医療の意思の共

有を図つておくこと、誰が医療同意するのかを決めておくことが大切であると述べました。そして、重度心身障害があり十五歳で他界した自身の長女が心臓停止となつた際、心肺蘇生を行つたがわずか三日しか生きられず辛い思いをさせたことが悔やまれるとの体験を話してくれました。

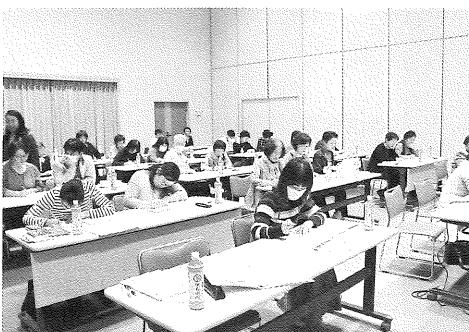
まとめとしてノートは気負わず、記入できるところから記入し、わからぬところは、相談し合いながら記入していくをしようと語りました。

続いて八高幸子会長が、子供の情報を記録に残しておくことの必要性や記録する事項、ノートの書き方などを説明した後、参加者全員にトイレやパニック等の項目について記入例を参考にして記入体験をしてもらいました。参加者からは今は自分でできていることも、将来できなくなる不安があるとの意見があり、ありのままの気持ちを記入するようアドバイスを受けていました。

太田市障がい福祉課の高山一騎主事からは県内二番目にスタートした太田市地域生活支援拠点について説明があり、行政だけでなく地域全体で支えるしくみであること、今後は大規模施設の運営が困難となり、小さなグループホームや作業所が主流となること、親なき後を支える仕組みとして①相談、②緊急対応、③体験、④人材育成、⑤地域づくりといった五つの支援機能を整備すること、緊急対応だけが注目されてしまうこと、障害福祉人材育成の



太田市藪塚本町手をつなぐ育成会
八高幸子会長挨拶



太田市藪塚本町手をつなぐ育成会
あんしんノート説明会
参加者の様子



太田市障がい者相談支援センター
相談支援専門員一瀬仁志氏説明



太田市障がい福祉課高山一騎氏
太田市地域生活支援拠点の説明

**藤岡市手をつなぐ親の会
あんしんノート説明会**

藤岡市手をつなぐ親の会主催のあんしんノート説明会が令和元年十一月六日（水）に、藤岡市福祉会館を会場に開催されました。主催者である藤岡市親の会の笠原榮会長の挨拶のあと、富岡市手をつなぐ育成会会長で県育成会のあんしんノート普及啓発委員の岩井三千夫氏がノート作成の経緯等を説明しました。岩井氏からは、県育成会の歩みや我が子を亡くした体験、あんしんノートは十人の作成委員で1年間の真剣な検討を経て完成したこと、延命治療の項目は前橋市医師会のノートから引用し加えたこと、何かあつたときのためにノートに健康面などを記入しておくことがいかに大切であるかなどを話してくださいました。

続いて「かんなの里相談支援事業所」の君野文子氏よりあんしんノートを見て中身が濃いと感じたこと、本人の意思を尊重するためには意思形成の機会を増やしていくことが必要であること、家族で相談しながら記入すること、地域生活支援拠点整備にあんしんノートの情報が役立つこと、みんなの安心のためのノートとして活用していく欲しいことなどが語られました。

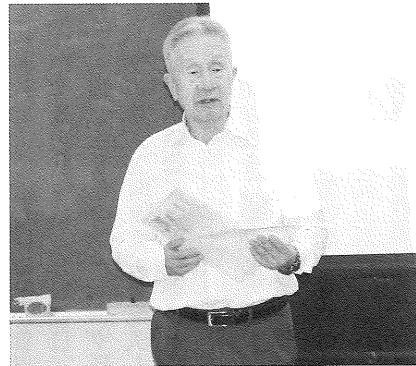
最後に江村会長があんしんノートの記入方法について、成年後見や延命治療のほか、頁を追つて項目ごとに説明しました。



かんなの里相談支援事業所
君野文子氏説明



県育成会あんしんノート普及啓発委員
富岡市手をつなぐ育成会会長
岩井三千夫氏説明



藤岡市手をつなぐ親の会
笠原榮会長挨拶

**館林・邑楽手をつなぐ親の会
あんしんノート説明会**

館林・邑楽手をつなぐ親の会主催のあんしんノート説明会が令和元年十一月十二日（火）に、館林市文化会館を会場に開催されました。主催者である館林・邑楽手をつなぐ親の会の川島洋子会長の挨拶のあと、江村会長が挨拶しました。続いて太田市手をつなぐ育成会会長で、県手をつなぐ育成会のあんしんノート普及啓発委員の饗庭敏彦氏よりノート作成の経緯について説明がありました。饗庭氏は館林市で生まれ育ち、教員となつて太田や桐生の養護学校や小中学校の支援学級などで障害児教育に携わった経験や、あんしんノートの普及啓発に尽力していることなどが語られました。

続いて江村会長が、ノートの書き方をパワーポイントを駆使して説明しま



館林・邑楽手をつなぐ親の会
川島洋子会長挨拶

した。本人の日常生活、連絡先、スケジュール、関係先、かかりつけ医、マインナンバー等を記入しておくことが、次の支援につながりやすいこと、今、このノートに記入しておくことが子どもの安心につながるので、気負わず、記入できるところから記入し、分からぬところは相談しながら記入しました」と語りました。

その後、川島会長がリードし参加者全員で約二十分間ノートの記入体験を行いました。

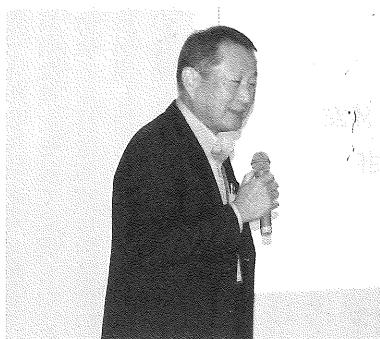
最後に「相談支援センターほつと」の相談支援専門員の田村裕昭氏が災害対策と同様に親なき後の対策もそのうちにやれば大丈夫と思っているが、今、やつておくことが大切であると語り、三つの事例を通して、住まいや身の回りの世話、成年後見や自立支援の問題を早期から計画的に取り組むことが大切であり、あんしんノートの記入がその第一歩となると語り、地域生活支援拠点も順次整備されるが大切なのは緊急を作らないことだと説明しました。



藤岡市手をつなぐ親の会
あんしんノート説明会参加者の様子



館林・邑楽手をつなぐ親の会
あんしんノート説明会参加者の様子



相談支援センターほっと
相談支援専門員田村裕昭氏説明



県育成会あんしんノート普及啓発委員
太田市手をつなぐ育成会会長
饗庭敏彦氏説明

太田市手をつなぐ育成会主催のあんしんノート説明会が令和元年十二月五日（木）に太田市福祉会館を会場に開催されました。主催者である太田市手をつなぐ育成会の饗庭敏彦会長の挨拶のあと、太田市手をつなぐ親の会会長の岡田晃氏、そして江村会長が挨拶しました。当日は、親の会をはじめ、養護学校や特殊学級の保護者、ともの会など百名を超える参加者で、会場は満席となり参加者の熱気にはめられました。

成年後見制度の課題、延命治療の同

意など本人の意思を尊重しながら家族でよく話し合つて決定することの大切さ、地域生活支援拠点が順次整備され支援が切れ目無く提供されるよう期待していること、緊急対応には本人の情報が必須であり、親にしか書けない情報を取り入しておくことが貴重な財産となると語りました。

続いて「これから太田の福祉」について、太田市障がい福祉課の高山一騎主事が説明し、本人・家族の高齢化、障害の重度化・多様化、地域コミュニティの衰退、自治体の財政悪化などにより、今までの支援体制が維持できなくなつたこと、五つの支援機能を有する地域生活支援拠点を整備することが大切であること、太田市では今年七月一日から運用を開始したこと、家族は、地域や支援者とのつながりを大切にし、情報を整理しておいて欲しいことなどが語られました。最後に太田市障がい者相談支援センターの一瀬仁志氏が、「障害のある方の親なき後」について語り、緊急時の対応事例が二つ紹介され、生活資金、住まい、権利擁護などの不安に計画的に対処していくことの必要性を強調しました。生活資金については、就労収入、障害年金、家族の支援などを受けられない場合は生活保護もあること、住まいについては、親なき後に備えて新しい環境への移行の準備が必要なこと、権利擁護については、成年後見制度の活用も検討するよう説明がありました。



太田市手をつなぐ育成会
あんしんノート説明会参加者の様子



太田市手をつなぐ親の会
会長岡田晃氏挨拶



太田市手をつなぐ育成会饗庭敏彦
会長挨拶・説明

新規事業 知的障害普及啓発セミナー

群馬県手をつなぐ育成会主催の知的障害普及啓発セミナーが令和元年十一月四日（月）に群馬県社会福祉総合センター八階大ホールにて開催されました。セミナーは、知的障害者への正しい理解を深め、地域共生社会構築の一助となることを目的に行い、江村会長の主催者挨拶の後、高崎市手をつなぐ育成会副会長の萩原典子さんが、「子と一緒に暮らす親の体験」をありのままに語つてくださいました。

午後は、「地域共生社会とはなにか」「誰もに出番と役割のある地域に向けた仕組み作り」と題して全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員の又村あおい氏に講演していただきました。又村氏は、障害者福祉施策全般に詳しく、これまで障害者福祉の向上に向けて、国に対する要望活動の中核を担われてきました。

今回は、地域共生のしくみ作りについてわかりやすく話してくださいました。

又村あおい氏講演

パネルディスカッション

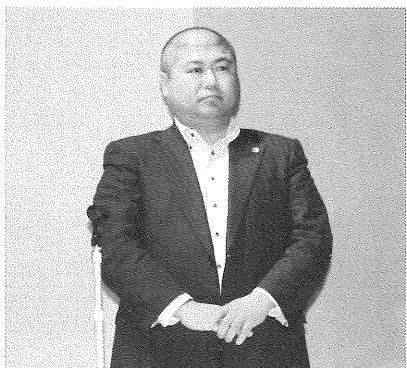
親なき後を考える講演会

群馬県手をつなぐ育成会主催の「親なき後を考える」講演会が、令和元年十一月二十六日（火）に、群馬県社会総合センター八階大ホールにおいて開催されました。

しまうので、正しい判定をしてもらうよう詳しく説明することが大切であること、終の棲家としてのこれからグループホームのあり方、成年後見制度の問題点、あんしんノートに情報を記録しておくことの大切さなどの話がありました。綿先生の講演は面白くて、わかりやすいので、会場の誰もが真剣に聴講しており、講演終了後も綿先生は何人の参加者の個別の相談に応じてくださっていました。



日本福祉大学教授綿祐二先生講演



「成年後見制度について」講演 板橋俊幸弁護士

第二十回群馬県障害者作品展



「第二十回群馬県障害者作品展」が令和元年十二月五日～九日に群馬県庁県民ホールにおいて、一般県民の福祉に対する理解を深めるとともに、障害のある人たちが障害を克服しながら自立し、社会参加への意欲を高めることを目的として開催されました。

出品点数は、身体障害者関係が百十点、知的障害者関係が七十点、精神障害者関係が七十点、合計二百五十点で、障害者が自ら作成した絵画、書道、写真、手工芸、立体作品等が展出されました。 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が平成三十年六月十三日に公布、施行されました。今後、文化芸術活動を通じて障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進につながることを期待したいと思います。

第五十三回手をつなぐ育成会関東甲信越大会「埼玉大会」が令和元年十一月九日（土）に埼玉会館で「この子らを世の光に～ノーマライゼーションの原点に立つて」をテーマに開催されました。午前中は大会式典、全体会があり、午後は第一～三の分科会が行われ、午後五時からは懇親会が行われました。第一分科会では、「これから育成会」をテーマにネット社会における人と人とのつながりの大切さについて、栃木県育成会の小島幸子氏がコーディネーターとなり群馬県育成会会长の江村恵子氏をはじめ三人のシンポジストによる討議が行われ、第二分科会では「権利擁護を考える」をテーマに虐待・差別をどう乗り越えるかについて毎日新聞論説委員の野沢和弘氏を講師に討議を行いました。第三分科会では、「共生社会で生きることを支えるもの」をテーマに計画相談、成年後見制度、地域の理解啓発などを重点に全国手つなぐ育成会連合会政策委員の又村あおり氏を講師に討議が行われました。本人大会は、鉄道博物館へのバスツアーとして実施されました。来年度は千葉市手をつなぐ育成会が当番で、令和二年十月二十四日（土）に東京ベイ幕張ホールで開催予定です。令和三年度は、群馬県手をつなぐ育成会が当番となります。

第五十三回手をつなぐ育成会 関東甲信越大会

全国手をつなぐ育成会連合会大会

全国手をつなぐ育成会連合会全国大会「熊本大会」が十一月二十三日～二十四日に地震復旧・復興を進める熊本城ホールで「一人ひとりを認め合う社会の実現～熊本のこころを全国に～」をスローガンとして開催されました。全体会では、式典・中央情勢報告のあと放送作家で脚本家の小山薰堂氏から「幸せの企画術」と題し記念講演がありました。全体会前日の十一月二十三日には第一～第五の分科会が行われました。分科会では、「育つ・学ぶ」「働く」「暮らす」「権利擁護」「地域育成会の活性化」について、基調講演とシンポジウムが行われました。

本人会は、ウエルカムコンサート・トークショーのあと、第一から第三分科会に分かれて、助言者の講演、意見発表、助言者からのアドバイス、グループトークなどがありました。また、「山鹿八千代座」での表現活動や恐竜博物館などへのバス観光ツアーも行われました。次期開催地は愛媛県で令和二年十月三日（土）から四日（日）開催です。

啓発キャラバン隊疑似体験セミナー

沼田市心身障害者育成会主催の啓発キャラバン隊疑似体験セミナーが、令和二年一月十七日（金）に、群馬県社会福祉総合センターで開催され、群馬県手をつなぐ育成会が後援しました。

このセミナーは、啓発キャラバン隊として全国的に活躍している兵庫県たつの市手をつなぐ育成会「びーす＆ピース」の代表矢野一隆氏と中島恵子氏を講師に招き、疑似体験を通して、知的障害者のこととを一般県民にわかりやすく楽しみながら理解していただき方法について学ぶことを目的に開催されました。

冒頭、沼田市心身障害者育成会会長の木村敬史氏が主催者挨拶を行い、続いて県育成会の江村会長が挨拶しました。両氏とも、知的障害者とを理解してもらうのに疑似体験が有効であり、貴重な機会なのでしつかり学びたいとの話がありました。

「びーす＆ピース」は、たつの市の手をつなぐ育成会の会員、行政職員、地域の人、社協職員で構成されたチームで、たつの市手をつなぐ育成会会长の矢野一隆さんの「知的障害をみんなに『楽しく』理解してほしい」との思いから始まった活動で、昨年度、知的障害疑似体験というジャンルで日本で初めて厚生労働大臣表彰を受賞しています。

公演は楽しく、まるで関西の芸人さんのお笑いを見ているような感覚で思わず引き込まれてしまう魅力がありました。

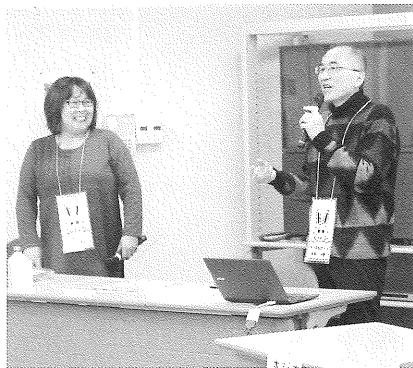
ペットボトルや軍手など身近な物を使つての疑似体験は分かりやすくて実践的で誰もが応用しやすい内容でした。今後、県内でもキャラバン隊の結成が望されます。



キャラバン隊参加者の様子



キャラバン隊「ピース&ピース」公演

キャラバン隊講師「ピース&ピース」
代表矢野一隆氏、中島恵子氏

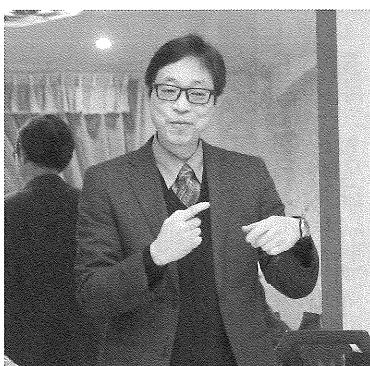
渋川市手をつなぐ育成会あんしんノート説明会が令和二年一月二十一日（火）にお菓子の城ホワイトパークで開催されました。冒頭、渋川市手をつなぐ育成会会長の川崎均氏が開会の挨拶を行つたあと、県育成会あんしんノート普及啓発委員で県育成会副会長の前川知三氏があんしんノートの説明を行いました。

前川副会長は、参加者の子供の年齢や施設等の利用状況を聞いた上で、高齢の親が子供の支援から引退するためには、支援チームを作ることが大切であると訴えました。また緊急時に備えてあんしんノートに是非とも記入しておいて欲しい事項を説明したうえで、全員で記入体験を行い、最後に質疑応答を行いました。

当日は、渋川市地域包括ケア課の関口礼二課長補佐も出席され、渋川市では地域生活支援拠点を令和二年四月の発足に向けて準備を進めていると説明がありました。

また、渋川広域障害福祉なんでも相談室の宇佐美慎子氏からは、緊急時に備えて日頃から福祉施設を利用するなど連携を図ることの重要性や、あんしんノートには、服薬の方法について、詳細に記入しておいて欲しいとの要望がありました。

渋川市手をつなぐ育成会 あんしんノート説明会

渋川市手をつなぐ育成会
あんしんノート説明会参加者の様子県育成会あんしんノート普及啓発委員
県手をつなぐ育成会副会長
前川知三氏説明渋川市手をつなぐ育成会会長
川崎 均 氏挨拶

ボウリング大会の様子



料理教室の様子

つるの会主催の料理教室が令和二年一月二十六日（日）に前橋市中央公民館で開催され、管理栄養士の鈴木俊子先生を講師にチキンカレー、ナン、カチュンバル、ラッキーを作りおいしく食べました。またボウリング大会が二月二日（日）にラウンドワン前橋店で開催され、楽しく交流を深めました。

つるの会（本人の会）活動報告 料理教室及びボウリング大会の開催



全国手をつなぐ育成会連合会
副会長 小島幸子氏 講演

午後は、栃木県手をつなぐ育成会連合会副会長で、全国手をつなぐ育成会連合会副会長の小島幸子氏が、「楽しいところに人は集まる！楽しく役に立つ育成会活動を目指して！」をテーマに講演してくださいました。

講演では、強度行動障害の子供のことや地域生活支援拠点のこと、育成会の活性化について、栃木県の取組みなどを講義してくださいました。

当日は、江村会長の挨拶の後、参加者全員の自己紹介と支部活動の報告が行われ、支部の活性化について話し合いを行いました。

午後は、栃木県手をつなぐ育成会連合会副会長で、全国手をつなぐ育成会連合会副会長の小島幸子氏が、「楽しいところに人は集まる！楽しく役に立つ育成会活動を目指して！」をテーマに講演してくださいました。



国立のぞみの園
事業企画部相談支援課
高橋淳氏講義

研修会では、のぞみの園の高橋淳氏から活動概要や地域支援、災害対策の熱心に学んでいました。

あんしんノート説明会では、県育成会副会長の前川知氏からあんしんノートの説明を受けました。

料理教室では、天ぷら、きんぴら、ホウレン草のごま和え、けんちん汁など料理しました。

田会場）が令和二年二月十六日（日）にホテルベラヴィータにおいて約百七十名が参加し盛大に開催されました。

群馬県相談員連絡協議会の行事 第二回役員会・料理教室・研修会・ あんしんノート説明会

高橋知副会長叙勲受章祝賀会（沼田会場）

田会場）が令和二年二月十六日（日）にホテルベラヴィータにおいて約百七十名が参加し盛大に開催されました。



県育成会の今後の行事予定	
五月十四日（木）	第一回県育成会理事会
五月二十八日（木）	第五十六回県育成会大会
七月十八日（土）	県育成会総会
十月三日（土）～四日（日）	群馬音楽センター（高崎市）
全国手をつなぐ育成会連合会大会	関東甲信越ブロック大会
十月二十四日（土）	愛媛県松山市 千葉県千葉市

生サポは 知的障がい児者・自閉症児者の 家族の安心を支えます

当会にご入会いただくと、
知的障がい児者・自閉症児者のための
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

●日常生活に関する相談支援	●就労に関する相談支援
●権利擁護に関する相談支援	の3事業を実施しています。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき 入院給付金	病気で死亡したとき 疾病葬祭費用保険金	虐待・逮捕・勾留に対応するとき 弁護士費用等補償
ケガをしたとき 死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金 (地震・噴火・津波によるケガも対象)	賠償責任を負ったとき 個人賠償責任保険金	就労中に他人にケガをさせたり 物を壊してしまったとき 職業従事中事故対応費用保険

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

ご入会のお問合せはこちら

一般社団法人 群馬県知的障害児者生活サポート協会

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13番12号

群馬県社会福祉総合センター5階

TEL : 027-288-0120 FAX : 027-288-0121

受付時間：午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

<http://www.gunsapo.jp/>

2019年11月現在の内容です。(D-004329 2021-03)

■担当代理店・扱者

株式会社 ジェイアイシー

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F

TEL : 03-5321-3373 FAX : 03-5321-4774
受付時間：午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

<https://www.aig.co.jp/sponpo>

東京第二プロチャネル営業部

〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階
TEL : 03-6894-9110
受付時間：午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)